



# つながり つむぐ

☆☆☆☆☆☆☆☆ 「えべつ型コミュニティ・スクール」

令和6年12月13日  
第50号  
江別市教育委員会  
総務課・学校教育課

## 小中一貫教育先進地の取組を学び、生かすために ～中央中学校区 第19回小中一貫教育全国サミットinびんご府中の視察～

4名の中央中学校区の先生方が、9月27日(金)～28日(土)に開催された「第19回小中一貫教育全国サミットinびんご府中」の研究大会に参加し、先進地の取組について研修してきました。初日の授業公開、2日目の分科会協議と基調講演が主な内容でしたが、参加者で分担して広島県府中市の義務教育学校を含む4つの中学校区の授業公開や分科会に参加し、児童生徒の姿や研究発表を通して具体的な取組について学ぶことができました。

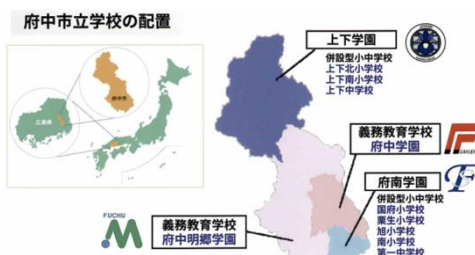
府中市では、平成16年度に小中一貫教育制度の試行を開始し、平成20年度から導入しています。また、平成29年度からは市内全ての小中学校を義務教育学校と併設型小中学校に移行し、平成31年度(令和元年度)からコミュニティ・スクールも全校に導入しています。

小中一貫教育の主な特徴は以下の4点です。

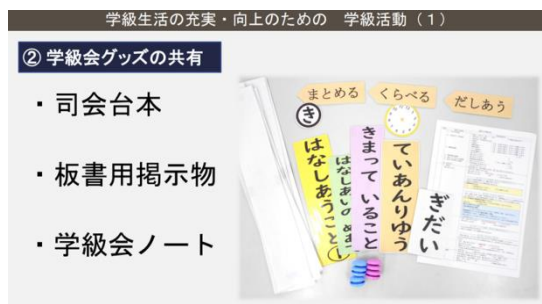
- ① 「らんさぼ(放課後ラーニング・サポート)」という放課後学習を支援する仕組みをつくり、令和4年度から児童生徒の支援を進めている。
- ② 教育課程に「ことば探究科」という独自の教科を年30時間(小1のみ20時間)位置付けている。
- ③ 主体的に進路を選択決定する力を培うことを目的とし、単なる職場体験とならないような「キャリア教育」を実践している。
- ④ 全国学力学習状況調査とは別に「i-check」という市内一斉学力調査事業を年2回実施し、分析結果をもとに市内全教職員対象の研修会も開催している。

また、義務教育学校である「府中学園」と「府中明郷学園」、4つの小学校と1つの中学校からなる「府南学園」、2つの小学校と1つの中学校からなる「上下学園」がそれぞれ特色のある取組を行っており、学校数や規模、地域の特色に違いがある江別市の小中一貫教育にも参考となる実践がたくさんありました。

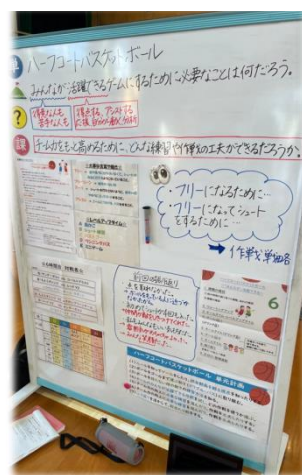
尚、詳しい研修報告は、来年2月に開催予定の「第2回小中一貫教育担当者会議」の中で行っていただく予定です。



府中市の4つの地域の小中一貫教育



府中学園の「特別活動」



参観した授業の板書

# 系統的な指導の視点から授業づくりを考える

## ～指導案上でも系統性を意識する…第一中学校区、野幌中学校区、第三中学校区～

各中学校区で、学校教育指導を通してお互いの校内研究や授業改善について学び合う取組が進められています。

第一中学校の第2学年理科の研究授業では、学習指導案上に「気象とその変化」に関する小中の系統性が示されていました。

東野幌小の第6学年算数科の研究授業では、「データの活用」に関する既習事項と「数学的な見方・考え方」を視点とした中学2年生の「確率」の学習への系統性を明らかにしていました。

いずみ野小の第6学年国語科の研究授業では、「説明文」に関する単元の系統性と指導事項の系統性を指導案上に位置付けていました。

いずれの実践も、小学校教育から中学校教育への円滑な接続が図られるように工夫することを求めている現行の学習指導要領を踏まえて、単元や領域、指導事項の系統性を意識しています。

過日、開催されたある中学校区の江教研小中ブロック研究会では、国語科の教科部会で、「高校入試の漢字の書き取り問題は、小学校で習った漢字を使った未習の熟語が出題されている」ということが話題となっていました。

平成20年に告示された小学校算数科の学習指導要領に記載されていた「算数的活動」は、現行の学習指導要領では「数学的活動」と改訂されています。これは、小学校においても数学的な問題の発見と解決の力を伸ばすことが求められており、中学校の数学科との関連が強化されたからだと考えられます。

また、中学校での学習のつまずきの原因を遡って探していくと、小学校低学年の学習に課題があったということもあります。

小学校としては、今学習している内容が中学校にどのようにつながっているのか、中学校としては、小学校も含めてこれまで学習してきたことが本単元の学習にどのようにつながっているのかを意識すると、しないのでは、子どもたちの学びに違いが出てくるはずです。

このことを踏まえ、小中9年間で「系統的な指導」を進めていくことが求められます。

### ※第一中2年生理科の学習指導案より抜粋

#### 【単元について】

#### 2. 単元について

…小学校では、1日の気温が変化すること、雲の量や動きが天気の変化と関係があること、水は蒸発し水蒸気となって空気中に含まれること、空気が冷やされると水蒸気は水になって現れること、台風による天気の変化、映像などの気象情報を用いて天気の変化が予測できることについて学習している。中学校では、身近な天気や気象現象について小学校での学習をさらに発展させ、観測の仕方や機器の扱い方を学び、観察・実験の結果や資料をもとに、天気の変化の規則性、前線による天気変化、霧や雲の発生のおよび、天気の変化のしくみ、天気の予測などを学習する。…

### ※いずみ野小6年生国語科の学習指導案より抜粋

#### 【学習の系統性～単元の系統性と指導事項の系統性】

#### 7. 学習の系統性

##### (1) 単元の系統性

小学校第5学年	小学校第6学年	中学校第1学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・見立てる</li> <li>・言葉の意味がわかること</li> <li>・固有種が教えてくれること</li> <li>・想像力のスイッチを入れよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑うから楽しい</li> <li>・時計の時間と心の時間</li> <li>・『鳥獣戯画』を読む</li> <li>・「考える」とは</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイコンは大きな根?</li> <li>・ちょっと立ち止まって</li> <li>・「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ</li> <li>・「不便」の価値を見つめ直す</li> </ul>

##### (2) 指導事項の系統性

	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校第1学年
構造と内容の把握	段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとにとらえること。	事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握すること。	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見の関係などについて叙述をもとにとらえ、要旨を把握すること。
精査・解釈	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。
考えの形成	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。
共有	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気付くこと。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	

小学3年生  
⑥ばうグラフと表  
・データを分類整理すること  
・棒グラフ  
・簡単な二次表

小学4年生  
②折れ線グラフと表  
・データを分類整理すること  
・折れ線グラフ  
・二次表

小学6年生  
⑫並べ方と組み合わせ方  
・場合の数の調べ方  
・順列、組み合わせの素地

中学1年生  
・統計的確率

中学2年生  
・数学的確率

### ※東野幌小6年生算数科の学習指導案より抜粋

#### 【本単元の学習の関連と発展】

